

大学名： 広島大学教育学部 ※改組により大学院教育学研究科は無くなりました

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	2021年度は広島県及び山口県の学校からの新規での加盟申請は無かった。以前に申請上の不備があり検討が一旦停止になっている学校への支援や働きかけを継続している。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	2021年度は広島県及び山口県の学校の新規でのチャレンジ期間の相談は無かったが、終了にむけた支援とともに断念を決断することになった学校の相談に応じることができた。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	SDGsコンソーシアム事業により、ユネスコスクールの教員研修の場を設定した。 SDGsコンソーシアム事業により、ユネスコスクールの優れた取り組みの実践発表会を行った。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	SDGsコンソーシアム事業により、出前授業と授業づくりワークショップ、SDGs関連の読書会を企画運営した。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	SDGsコンソーシアム事業により、研修会と授業づくりワークショップを、広島県ユネスコ連絡協議会や広島県ユネスコスクール連絡協議会と協働して開催した。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	SDGsコンソーシアム事業により、広島県ユネスコ連絡協議会や広島県ユネスコスクール連絡協議会と協働してミステリーによる授業づくりワークショップを2回開催した。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	広島県、東広島市などの教育委員会と連携して、ユネスコスクールの活動の活性化に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、十分な活動とならなかった。
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	JICA中国、EPO中国、広島ガスなどの多様なステークホルダーと連携した活動ができた。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学	広島県教育委員会、東広島市教育委員会、広島市立大学などと連携して、研修会などを開催した。

	間の連携を促進することができた。	
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	横浜市や宮城県のユネスコスクールの活動と連携した。 国外のステークホルダーとの連携はできなかった。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	研修会で国内のユネスコスクールの実践発表を企画運営した。 国外のステークホルダーとの連携はできなかった。
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	ドイツ国際平和村職員によるオンライン研修会を行った。 その他の国外との交流はなかった。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	研修会等については大学内での広報活動も行った。
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	永田忠道先生の学部と教職大学院の授業で、研修会やワークショップと連携した活動ができた。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	
	4. 自由記述	